

Q & A

第7回



水口真理子

メディカル・スペースデザイン(株)
代表取締役
医療施設専門
インテリアコーディネーター
1級カラーコーディネーター

ホスピタルアートの例



上/待合室・プレイルームにはプロジェクションマッピングも導入。

下/マグネット壁画。

(いしいこどもクリニック・大阪府堺市)

コンセプトは「カエルのお医者さんFamilyの不思議な旅」。診察を待つまでの不安を取り除き、楽しく過ごせる空間を目指した。

上/ブリキのオブジェ、スタッフと子どもたちが作成したいろいろな虹。

下/病児保育室「にじ色ひろば」への階段。

(赤ちゃんこどものクリニックBe・和歌山県田辺市)

コンセプトは「ハチドリのはとすずく」その後の物語。「私は、私にできることをしているだけ」という病院の理念を表現した作品。



待合室・天然木の本棚と掲示板。
(さのこどもクリニック・大阪府大阪市)
コンセプトはこどもの成長を見守る2本の樹。自然素材にこだわり、地域の子どもたちと木製マグネットも制作。

頼者の気持ちに寄り添ってコミュニケーションを取ることが大切だと考えています。
その思いやイメージを表現することは難しい作業ですが、先生やスタッフの皆さんとそのプロセスを踏んでいくこと、共に創り上げていくこと、患者さんに喜んでいただけることが一番の喜びです。

インテリア医学の考えを基に、一般的なお悩みから特別なケースまで、時には専門家のレクチャーも受けながら、一緒に勉強していきたいと考えています。

先月号でご紹介したNPO法人アーツプロジェクトのスタッフとして、ホスピタルアートの導入の現場で活躍されている虎頭加奈さんに、仕事を進める中で大切にしていることを教えていただきました。

資料提供：NPO法人アーツプロジェクト

インテリアについてのご質問は編集部まで
宛先：apollonia@dentalnews.co.jp

●ホスピタルアート2

Q

ホスピタルアート導入で重要なものは？

A

医院とコミュニケーションを取ることで



虎頭加奈氏
NPO法人
アーツプロジェクト

何よりも重要でまず初めに取り組むべきなのは、先生やスタッフの皆さんの気持ち、どのような医院にしたいのかという思いをヒアリングし、汲み取ることで。また、その地域の地域性や歴史なども踏まえて、カジュアルかスタイリッシュかなど、どんなテイストを望んでいるのかをお聞きします。

合わせて頭の中のイメージを伝えてもらうために、たくさんキーワードを拾い集めます。例えば、「安心感を大事にしたい」「森のように落ち着けるように」「海の中のように」「大好きな絵本の世界を展開したい」など……。実にさまざまな要望がありますが、とにかく依